名古屋港管理組合議会　水族館特別委員会

プラスチックごみ・気候変動
環境保護啓発に水族館が役割を

みつなか美由紀議員

【みつなか議員】機能強化の課題のうち、「展示の魅力向上」のところで、社会教育施設として海洋文化の普及のほか、喫緊の「地球環境である気候変動やカーボンニュートラルなど、新たな教育的な取り組みを啓発する展示の演出が不十分」との認識をお持ちだということです。前回 6 月議会の、特別委員会ではなかったのですが、一般質問でごみ問題を取り上げさせていただきましたが、「教育的な取り組み」という観点から、環境問題を啓発する展示などはどのようにされていますか？

【港営課】現在、南館 3 階、参考としてお手元に配布をいたしましたフロアマップの左上あたりの箇所にて「環境啓発の展示」を行っております。

その箇所では、「エコ・アクアリウム～海の未来を考えよう」と題して、SDGs の取組目標のひとつである海洋環境、特に「海洋プラスチックごみ」と生物の関係について、地元企業から寄贈を受けた大型モニターや顕微鏡を活用し、展示解説をしています。

さらに、海岸に漂着したウミガメの胃の中から取り出したプラスチックごみや、愛知県下の海岸で採集したマイクロプラスチックの実物も展示し、こうした環境問題に目を向けていただく場を提供することで、環境保護の啓発に努めております。

【みつなか議員】現在の環境啓発の展示についてはわかりました。しかし、なかなか現在の展示では来場者の方からもあまり注目されていないように感じます。「新たな教育的な取り組みを啓発する」というところを、子どもさんにもより関心を持ってもらえるように大規模改修に向け、どのような具体策が考えられているのか。具体的にはまだでしたらめざす方向性などどのようにお考えでしょうか？

【港営課】現在展示しています「海洋プラスチックごみ」のほかにも、地球環境の喫緊の課題として、気候変動が生き物に与えるリスクが懸念されていますほか、この名古屋港でもカーボンニュートラルに向けた取り組みが行われています。

このため、生物を飼育する水族館の役割として、地球全体の環境保護の啓発についても関心を持っていただけるよう、飼育生物を観察しながらの環境啓発やレクリエーション機能を加えるなど、入館者が楽しみながら学べる方法を、他の先進事例を調査しつつ、検討して参りたいと考えております。

飼育動物の繁殖成功　手狭になった飼育環境の改善を

【みつなか議員】同じく機能強化の課題のうち、「飼育生物の環境」について、「極地ペンギンは、繁殖研究の成果により、飼育数が増加し、飼育面積の確保が不十分である」とのことですが、開館当時と比べて、ペンギン水槽で飼育していた数はどう変化し、面積が不十分となったのかお答えください。

【港営課】平成4年の開館当時、ペンギン水槽で飼育していた羽数は、4種76羽でありましたが、繁殖研究の成果により、令和4年度末現在、ペンギン水槽で飼育している羽数は、4種148羽となっており、開館当時になかった現在の飼育基準に照らし合わせると、生物に快適な飼育面積の確保が不十分となっております。

【みつなか議員】開館当時の倍になっているということで、それは手狭にもなるだろうというところで、面積が足りないということですのですが、どのように対応されるお考えか。また、現在の飼育基準に合うようにするにはどのくらいの面積が必要になるのでしょうか。

【港営課】飼育基準とは、名古屋港水族館も加盟をしている日本動物園水族館協会が、令和2年に設定した、生物の健全な飼育、福祉に資するための推奨基準です。このため、順守義務はないものの、飼育生物に十分に配慮しつつ、より快適な飼育環境の実現のため、最新の飼育基準を満

たすことが望ましいと考えますので、大規模補修と機能強化の検討を進めるなかで十分な飼育面積の確保についても検討して参りたいと考えております。

　また、推奨する飼育基準を満たす飼育面積を推計すると、詳細な調査が必要ですが、概ね現在の1.4倍ほどの飼育面積が必要であると想定しております。

【みつなか議員】飼育面積の確保については、大規模改修と機能強化の検討を進める中で検討するということで、わかりました。

　名古屋港水族館では、アカウミガメについても継続して繁殖に成功していると聞いていますが、ウミガメの水槽など飼育環境はどのようになっていますか？

【港営課】アカウミガメの繁殖については、平成7年に初めて産卵・ふ化に成功して以来、令和5年6月には、通算25シーズン目のふ化に成功したほか、他のウミガメについても繁殖に成功しております。

　ウミガメの飼育面積については、日本動物園水族館協会による飼育基準はありませんが、飼育生物の健康管理に十分に配慮しつつ、より快適な飼育環境の実現のため、ふ化した子ガメは、子ガメ用水槽にて飼育をしており、成長したウミガメについては、展示水槽での飼育のほか、併設されている「カメ類繁殖研究施設」にて飼育しております。

繁殖したウミガメで気候変動の影響を調査

【みつなか議員】展示水槽以外に、カメ類繁殖研究施設でもウミガメを飼育しているということがわかりました。

　名古屋港水族館は、ウミガメの回遊経路調査を行っていると聞いておりますが、この調査で放流するウミガメも名古屋港水族館で繁殖させ飼育したカメということですか？またウミガメ回遊経路調査の取り組みの調査目的など教えていただけますか？

【港営課】ウミガメの回遊経路の調査は、カメ繁殖研究施設で飼育したウミガメも使用し、太平洋東部で放流したウミガメの位置情報を追跡調査することにより、地球環境の課題とされている気候変動が、日本からアメリカへ太平洋を横断するウミガメの回遊経路にも影響する仮説を検証するものです。この調査により、気候変動が生物の生息環境にも大きく影響することを解明して、多くの方に環境啓発ができればと考えております。

【みつなか議員】 学校など教育団体は、名古屋港水族館を訪れる機会を教育の一環としてとらえています。名古屋港水族館は教育施設としての役割をしっかり果たされていると思いますし、また

生物の保護繁殖という点でも水族館の役割が果たされ、ペンギン水槽が手狭になっているなどそれだけ繁殖がうまくいっているということはとても喜ばしいことだと思います。

ペンギンにかかわらず、生物の飼育環境、快適に健康的に生活できる工夫努力をこれからも続けていただきたいと思います。

また、カメ繁殖研究施設については、来館者にあまり知られていないのではないかと思います。せっかく繁殖研究活動され、成功している施設ですから、もっと PR して、関心を持ってもらえる工夫をしていただきたいと思います。

ここに関心を持ってもらうことで、海洋ごみなど環境破壊問題について考えることにつながると思います。ウミガメは非常に長距離を回遊しています。ウミガメの死骸の胃からはタールの塊や、釣り糸、ペットボトル、プラスチックバックやビニールシートなど、消化されないので餌を食べるのにも支障が出るほど大量に出てきた事例も報告されています。子ガメにとってはもっと深刻です。海藻が多く茂る地域に子ガメが集まります。そういうところにはプラスチックごみも流れ着いてたまってくるところになり、その上にフジツボや藻類が繁殖し、餌と一緒にプラゴミも食べてしまうということになります。また、発泡スチロールのペレットは海を漂うホンダワラとほぼ同じ大きさ形をしているため餌と間違えて食べてしまいます。

カメだけでなくほかの生物でもこういう被害は出ていますが、名古屋港水族館で繁殖したかわいい子ガメ、そして何年もかけて大きく成長したウミカメが環境汚染の被害に遭っているということも、子どもたちにもわかりやすく関心を持てるようにすることも必要だと思います。

また、最後にしますが、環境破壊は、プラゴミだけでなく地球温暖化が大問題になっています。先ほどの説明で、放流調査で、気候変動の影響がウミガメはじめ海洋生物の生息に大きな影響を与えているかということを解明するということでありました。名古屋港水族館においては、プラゴミだけでなく気候変動についての啓発もニーズに合った形で進めていただきたいということで要望を述べて質問を終わります。